

高齢者が活躍できる 環境の整備

「小さな拠点づくりと健康寿命を延ばす仕組みづくり」

島根県

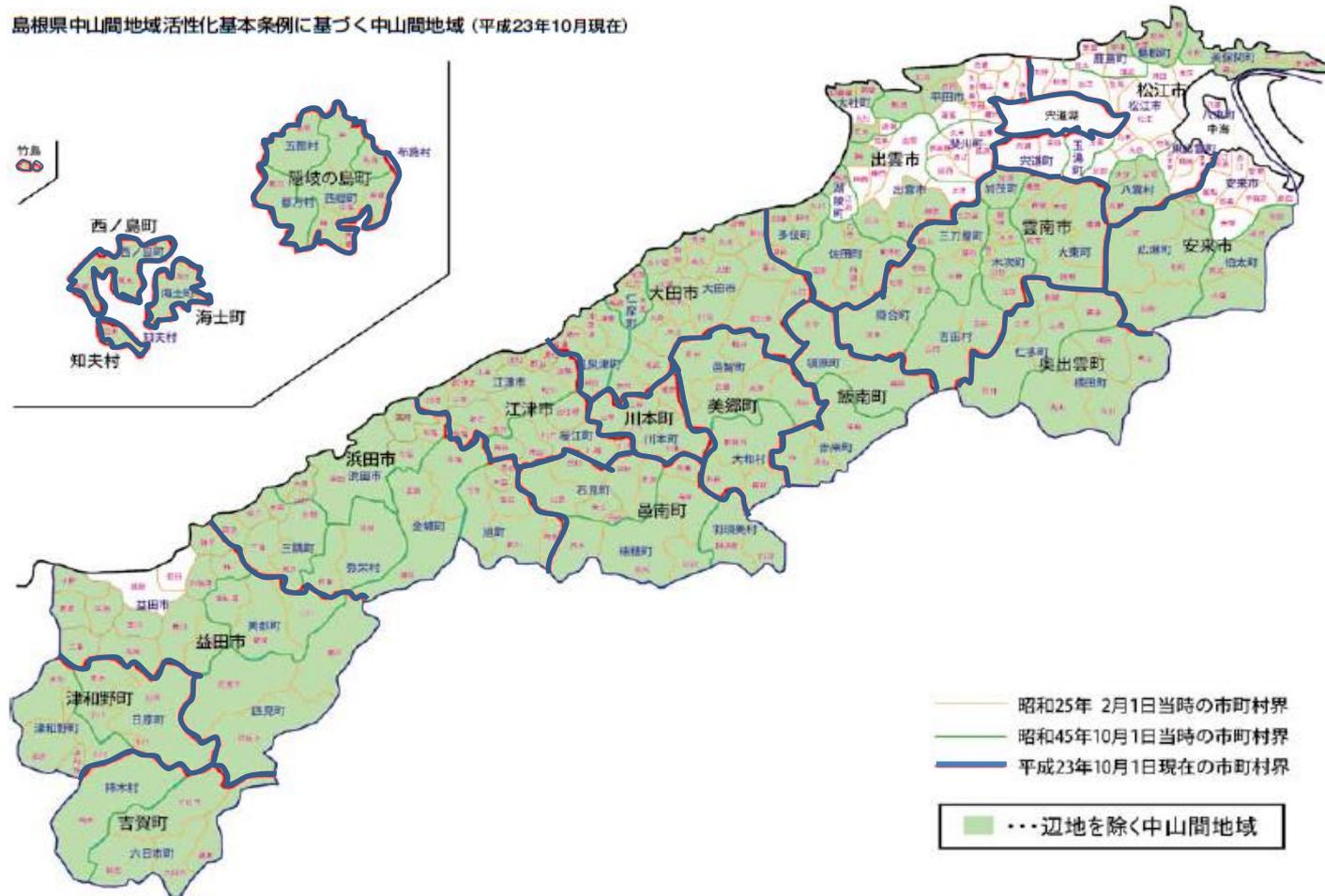
自立と分散で日本を変えるふるさと知事ネットワーク

第10回知事会合資料(平成28年8月3日)

1 島根県における中山間地域の現状

(1) 県土の87%が過疎地域などの中山間地域であり、人口の45%が中山間地域に居住。

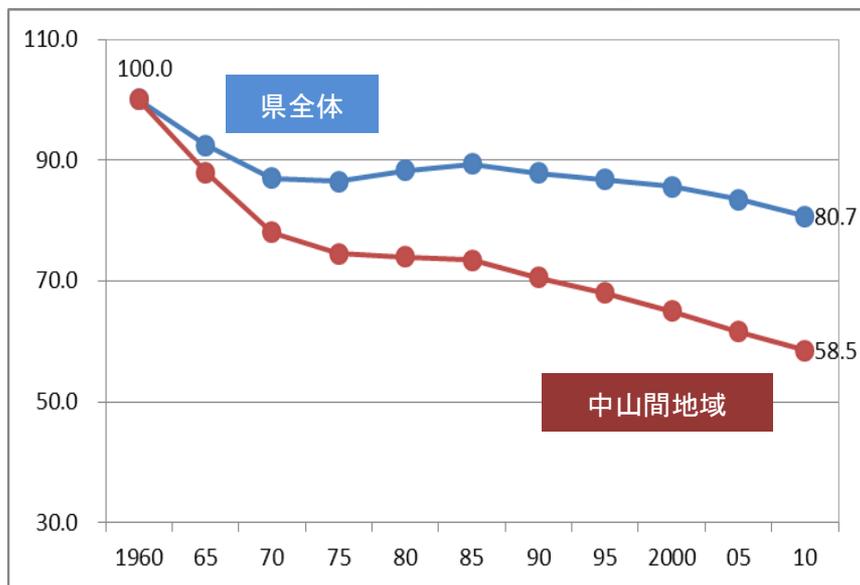
島根県中山間地域活性化基本条例に基づく中山間地域（平成23年10月現在）



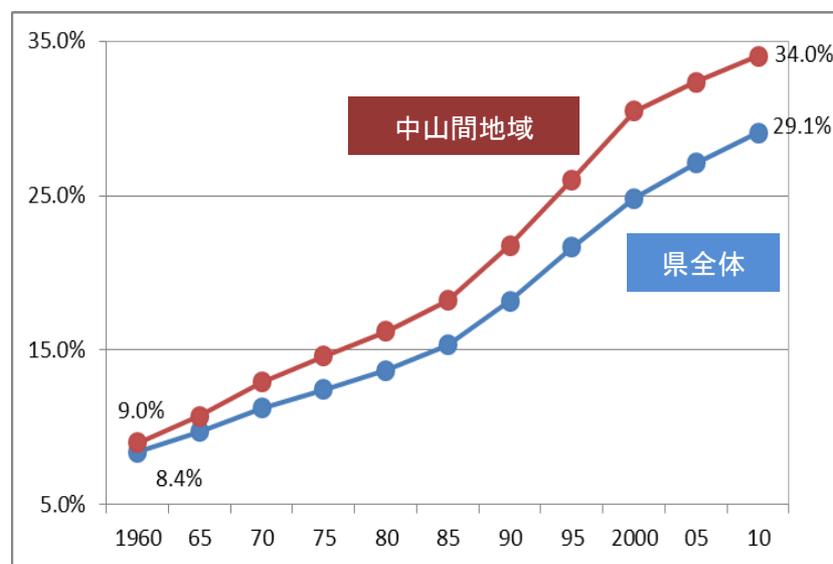
(2)中山間地域では、過疎化、高齢化による人口減少が他の地域より早く進行。

- ①県全体の人口は1960年から2010年の50年間で約20%減少、中山間地域では人口は40%以上減少。
- ②高齢化率も1960年はほぼ同値であったが、直近では5ポイント程度の開きがある。

●1960年の人口を100とした場合の人口の推移



●高齢化率の推移



資料:国勢調査報告(総務省統計局)

2 環境整備としての取組みの視点

(1) 高齢者が安心して住み続けることができるようにするための条件整備

① 生活機能の確保

- ・日常生活に必要な機能・サービス(買い物、金融、医療、介護など)の集約化
- ・廃校や道の駅等を活用したサービス拠点の整備

② 生活交通の確保

- ・交通弱者の移動手段を確保するための交通ネットワークの再構築

③ 地域産業の振興

- ・地域資源を活用した産業振興

(2) やりがい・生きがいを維持向上し、健康寿命を延ばす仕組みづくり

若年人口が少ない地域において高齢者の果たす役割は大きく、暮らしに配慮しながら、やりがい・生きがいを維持向上し、健康寿命を延ばす仕組みづくりが有効。高齢者になっても、日常生活に介護を要する状態でなく自立した生活を送ることが期待できる。

また、健康寿命の延伸は、介護に要する人や財源の負担軽減にもつながる。

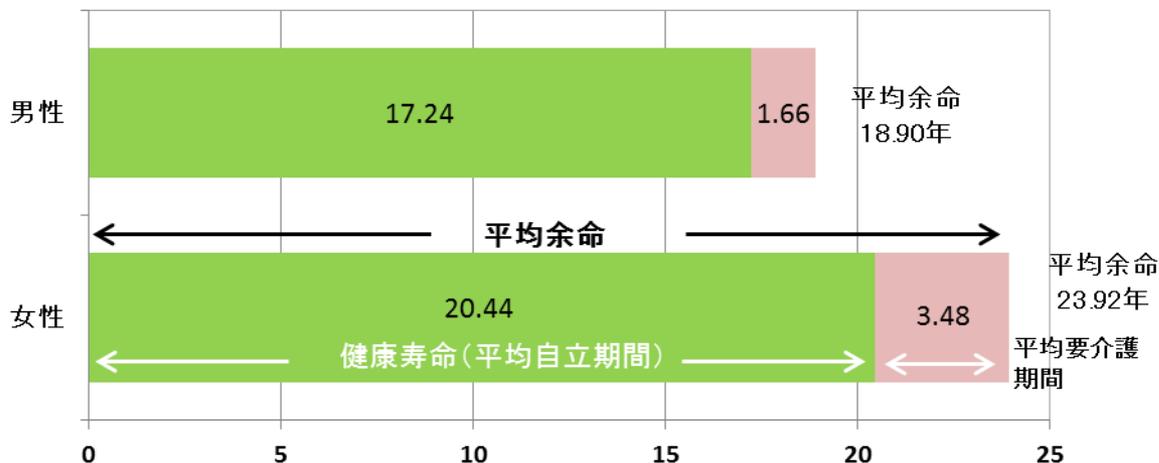
●健康寿命と正の相関があった主な指標

(第2期共同研究プロジェクト:「指標分析による健康長寿プロジェクト」 リーダー県:島根県)

男性:就業率、歩数

女性:就業率、社会参加(ボランティア、祭り・行事への参加)、介護予防サービスへの参加

●65歳平均余命と健康寿命・平均要介護期間(全国平均):「指標分析による健康長寿プロジェクト」

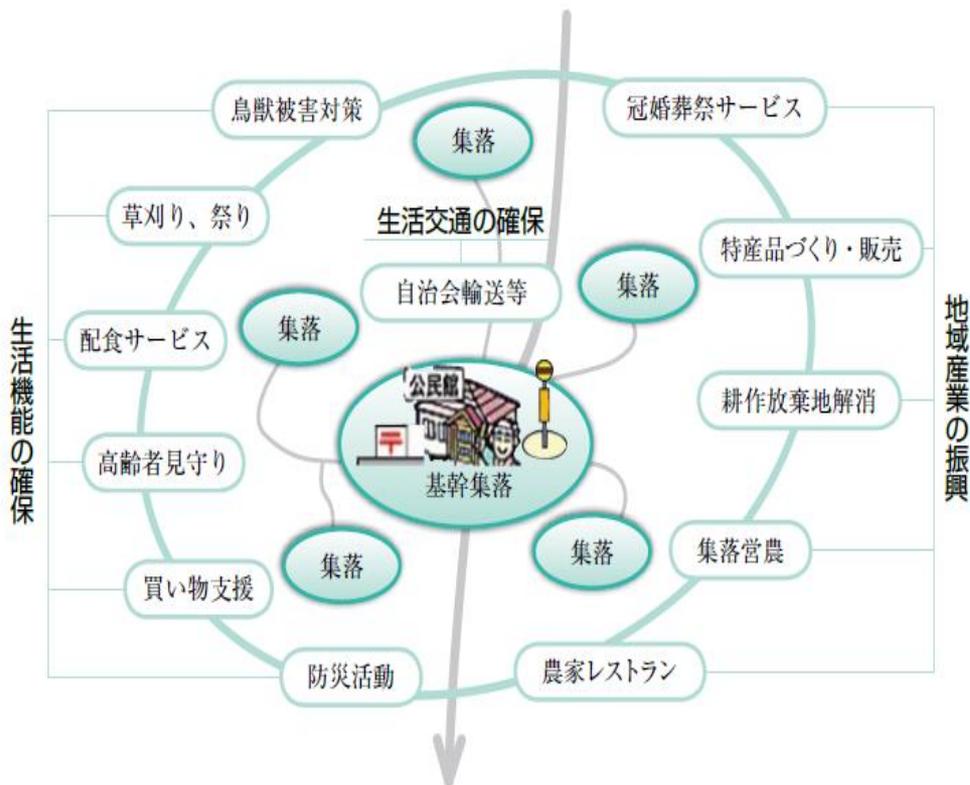


3 島根県の取組

(1)「小さな拠点づくり」

●島根の「小さな拠点づくり」とは

公民館エリア(旧小学校区)を基本とし、住民同士の話し合いを通じて、共通課題である「生活機能」「生活交通」「地域産業」を中心に地域運営の**仕組みづくり**に取り組んでいくこと



《島根の「小さな拠点づくり」の考え方》

- ① 中山間地域の中に「拠点」を作り、そこに集まって住もう、ということではなく、3つの柱の取組みを広域的に進めることによって、それぞれの地域で住み続けることができるようにしようとするもの。
- ② 必ずしも機能の「一点集中」を目指すものではなく、地域の実態に応じて、「小規模・分散型」の機能・サービスを交通手段でつないでいく方法も有効である。
- ③ 必ずしも公民館エリアごとに自己完結的に進めるものではなく、地域の実態に応じて、公民館エリアを超える、より広域の取組みも、必要である。
- ④ 住民同士の話し合いを始める際の「住民参画」の面では、公民館の活動との連携も含め、まず公民館エリアで住民の議論を喚起することが期待されるが、話し合いが進展する中で、隣接エリアなどと連携・協働した取組みが必要になる場合もある。

【行政の取組】

①「中山間地域対策プロジェクトチーム」による総合的・一体的な対策の推進

- ・県の各部局の事業担当、中山間地域研究センターの研究スタッフなどで構成する「中山間地域対策プロジェクトチーム」を立ち上げ、課題解決に向けた総合的・一体的な対策を推進
- ・プロジェクトチームのメンバーが、現場に入って地域づくりの取組みを直接支援した地区(現場支援地区)では、計画づくりや実践活動への着手が加速



②「しまねの郷づくりカルテ」に基づく対策の推進

- ・地域の方々が自らの状況を把握・理解し、地域の将来の目標を思い描くことができるよう、インターネット上で地域別の情報を見ることができるシステムを構築
- ・人口シミュレーション機能や各地区の取組みの成果事例・地域づくりの参考となる情報を総合的・一元的に掲載

●「しまねの郷づくりカルテ」人口シミュレーション画面



③市町村・地域(地区)への支援

- ・「小さな拠点づくり」を進めるための市町村の専任スタッフを新規配置した場合の経費を補助
- ・住民が主体となって行う地域課題解決のための取組み(研修会開催、先進地視察等)の経費を補助
- ・市町村が地域コミュニティ、NPO法人、社会福祉法人等の各種団体と連携し、地域資源を活かしたコミュニティビジネスを進める取組への支援や必要となる施設整備、車両及び備品購入費の補助
- ・市町村などが有償で運行する、広域通学、通院、生活交通の運行欠損実績に応じた補助

● 現行推移

過去5年間の人口増減の動きから単純に将来の地区の人口を推計したものです。

島根県観光キャラクター
しまねっこ
島根道庁電話1239号

● 人口増加シミュレーション

入力した組数が地区の外から移住、もしくは地区内から出てない仮定して将来の人口を推計したものです。

| | | | |
|--|--------------------|----|----|
| | 20歳代夫婦 | 6組 | /年 |
| | 30歳代夫婦 (子供連れ1人) | 6組 | /年 |
| | 60歳代夫婦 | 6組 | /年 |

ここで人口シミュレーションを
さっそくためしてみよう!

人口増加シミュレーション
(Excel版)

【地域の取組事例】

①生活機能の確保

●廃校を利用した拠点施設での買い物支援うなんしんかけやちよう（雲南市掛合町 はた 波多地区）

【事業の概要】

- ・旧波多小学校を地域の活動拠点の波多交流センターとして活用
- ・地域唯一の商店閉鎖を受け、買い物支援のため、交流センターを改修し、「はたマーケット」を開設
- ・生鮮食品や雑貨等を販売し、更に、喫茶コーナーの設置や買い物する方の自宅送迎等を実施

【実施主体】

- ・波多コミュニティ協議会

【事業の効果】

- ・買い物弱者への支援
- ・高齢者が連れ添って交流センターへ集まることによるひきこもり防止、安否確認等の場としても活用



②生活交通の確保

●地域による自治会輸送いいなんちよう（飯南町 たに 谷地区）

【事業の概要】

- ・飯南町が購入した車両を無償貸与し、自治会メンバーがボランティアで運転を行う
- ・利用者は、燃料費相当を実費として負担
- ・運行エリアは、地区内と赤名地区にある金融機関、開業医などの特定の場所

【実施主体】

- ・谷自治振興会

【事業の効果】

- ・高齢者の移動手段の確保
- ・住民ニーズを踏まえて、運行範囲を延長し、利用者の利便性を向上



③地域産業の振興

おおなんちょう いずわ

●多様な主体の連携による産業振興(邑南町 出羽地区)

【事業の概要】

- ・出羽自治会が、定住に向けた環境づくりのための空き家を改修
- ・LLC(合同会社)出羽は、空き家所有者との条件交渉、定住希望者とのマッチング、情報発信、住宅管理業務等を受託し、賃貸住宅経営を展開

【実施主体】

- ・出羽自治会、LLC出羽(農作業受託などの収益事業を担う合同会社)

【事業の効果】

- ・LLC出羽の設立により、収益事業、空き家対策等の実働部隊として、機動的な対応が可能



はまだし みまた

●地域資源を活用した特産品開発(浜田市 美又地区)

【事業の概要】

- ・黒米、黒大豆を活用した商品の改良(黒米焼酎のパッケージ改良、ミニボトル商品化など)
- ・菓子店の技術協力を得て、おから加工品(惣菜・菓子など)の商品化

【実施主体】

- ・NPO法人美又ゆめエイト

【事業の効果】

- ・商品の改良等に伴い、新たな販路・購買層の獲得を図り6次産業化を推進



(2)健康寿命を延ばす取組み

高齢者の健康づくり、介護予防、生きがいつくり・社会活動への支援など健康寿命を延ばす取組みを推進

【地域の取組事例】

- 高齢者福祉活動(生きがいつくり、要援護者への支援等)
しょうほくだい
(しほ北台いきいきライフを推進する会 松江市)

【活動内容】

- ・高齢者生活実態調査を基に各種事業・活動に取り組む
- ・生きがいつくり(自助)事業
趣味教室・同好会等様々なサークル活動を実施
「いきいき健康講座」は、ボランティアで講師を招き、保健・医療・認知症・介護等をテーマに2ヶ月に1回講座を開催
- ・要援護者への支援(互助)事業
高齢者の見守り活動やふれあい・交流活動を実施
- ・外部福祉団体との連携(共助)事業
生協しまね助け合い制度の利用促進、地域包括支援センターの出張相談、松江保健生協の健康チェックなどの事業を実施



- 地元住民と移住者との新たな地域づくり(きたぶ北分地区福祉会 あまちょう海士町)

【活動内容】

- ・新たな地域づくりとして、地元住民だけでなく、移住者との繋がりや関係性を構築
- ・地元住民の中には隠岐島前高校島留学の里親になっている住民もあり、高校生の参画や社会福祉協議会、集落支援員などを活用しながら、世代間交流や広報等様々な活動を展開
- ・高齢者は技や知恵で島暮らしの魅力や楽しみ方を伝え、若い世代からは活動のアイデアを取り入れることにより相乗効果が生まれ、地域の活性化に貢献



4 国への提案

(1) 「小さな拠点づくり」への支援

「小さな拠点づくり」は、日常生活に必要な機能・サービスを維持・強化し、併せて交通弱者の移動手段を確保しようとするものであり、特に高齢者が今後も安心して地域に住み続けるために不可欠な取組み

その実現には、地域の実情に合わせた支援が必要であり、柔軟性のある十分な財源の確保が必要

(2) 就労対策の拡充・強化

厳しい雇用情勢にある高齢者の雇用を促進するため、雇用・就業機会の確保・拡大や再就職などの支援策の充実

(3) 生涯現役社会づくりの推進

高齢者の健康寿命を延ばし、地域社会の一員として社会参画の推進を図るため、健康づくりや社会参画の仕組みづくりについて省庁横断的な具体策の策定

(4) 三世代同居・近居の促進

三世代同居住宅の新築・改築への支援や所得税の軽減措置などの優遇策のさらなる拡充